

平成29年4月

「形」が「心」に至る

私達古田土会計は、環境整備に因する方針に「形より入って心に至る。形が出来るようになるれば、あとは自然と心がついてくる。」と書きました。目的は心をつくることです。その手段として形が「入る」わけですね。形のみで心がついていかねば形も方針として実行する意味がありません。では形を何年位実行すれば心がついてくるかと言えは最低3年位徹底して実行することは必要です。徹底するコツは今回は書きません。大事なことは、徹底しなかつて創意工夫することだと思っております。何年マネして徹底しても全社員の創意工夫、知恵がなかつた効果は出ません。効果がないうことは業績が上がらないうちが経営者には気づきに存ると思っております。室町時代に世阿弥が「風姿花伝」という本の中で「守」「破」「離」という言葉で物事を学ぶ時の基本姿勢として3つの段階を経て、その道を究めると言っております。第一段階の「守」とは、師の教えをまめ忠実に守ることです。すべて師の教え通りにやる。第二段階の「破」とは、師の教えをすべて自分のものにした上で、自分の新しい工夫と努力を加えて、師の教えが少しづつ脱皮し、成長していく段階。第三段階の「離」とは、自分の工夫と努力によって、師の教えが脱皮し、自づ一つの境地を築きあげる段階です。形より入るのは「守」の段階です。しかし、守で止まっていたら人も会社も一時的にはよく存つて、長期的には成長できません。創意工夫するのが「破」の段階です。人はマネする意味を知らず心がついて3月11日に高輪チーゼル(株)様の第67期経営計画発表会がありました。古田土会計も含めて私が出席した発表会で一番全社員が一体となった爽しく、感動的な発表会でした。来賓として出席した中小企業家同友会大田支部の経営者の方々もびっくりしたり、感激していました。具体的には、社員の働く姿勢がよい。メモを取っている人が多いのがすばらしい、人の話はメモを取らなければすぐ忘れる、メモを取ることは、一生懸命働く姿勢の現われです。心が入っているのとたが聞くだけで、社員、来賓のメモを取る姿勢を見れば形が「心」に入っているのかわかります。私が最も感動したのは、発表会の後の表彰式とパフォーマンスです。表彰式では、表彰された方々に対して、多くの社員が笑顔で声を出して祝福しています。とてもあたたかい感じがありました。パフォーマンスは毎年見ていると楽しく、各チームごとに考えた工夫がなされます。今年朝礼を題材にして、タカワ体操を始め、全社員が楽しく心に演じていました。一度見学されてはりかがでしうか。会費は1万円です。「形より入って心に至る」ということで古田土会計で意識しているのは、給料、賞与を現金で支給していることです。うすか現金で支給しているのは、社員に働いてもらっていることに感謝しているの、感謝の言葉を給料、賞与を渡すときは「1カ月働いてくれてありがとう」と言ってお渡します。私が社員一人一人の机のところへ行って頭を下げて渡し、現金を渡したほうが心が入るからです。社長のところへ社員を並べて現金支給しても社員は喜ばないのではないかと思っております。社長が心を込めて、社員を大切に扱う。形も実践しているからと儲けるための形になり、社員には、伝わらないのでは無いでしょうか。心からの経営は形よりも心を重心に置くべきです。そのために社長、社員が共に創意工夫、知恵を出すことではないでしょうか。その源は、自利ではなく、利他の心です。どうした、自分の回りの人に喜んでいただくことを考え、実行しているかかと思っております。よい会社になるための目安は「日本が一番大切にしたい会社大賞」の審査基準にあります。

古田土 満